

歯の衛生週間

6月4日~10日

今月の健康

「歯とあご」について



今、人のあごが小さくなっているといわれます。歯の大きさは変わりませんが、歯とあごの間に不調和が生じます。すべての歯が満足に生えらるだけのスペースがないのです。その結果、当然のことながら、好ましくない事態が生じています。しっかりと噛むことができないとか、ちよつとしたことで、あごの関節を痛めてしまうとかです。

なぜ、このようなことが起こったのでしょうか。歯とあごがなんのためにあるのかといえは、まずは食べるものをかむためということでしょう。なんとといっても、人間「生き

るためには食べなければならぬ」というのが、生きるための第一条件です。歯とあごは、その第一条件を達成するために存在するのです。死ねばならぬという事実、原始、人は歯とあごを使って生きてきました。しかも、それは食べものをかむという段階を越えて、武器として、あるいは道具として使われ、また、使われるだけの構造と力を持っていました。環境がそのような能力を要求したのだらうし、能力のないものはどうたされてしまったのでしょうか。

「あごが小さく、あごの機能が失われる原因は、現代食の特徴は、「加工されていて、軟らかい」ということです。

「汚染物質の増加」「自浄作用の低下」軟らかいのでかむ必要がなく、かまないで食べものの汚れが、口の中に残りやすくなります。

「咀嚼しやく機エネルギーの低下」

「咬合の退化と発育の低下」

「歯とあご骨の不調和」「咀嚼しやく能力・器官の抵抗力の低下」

話題

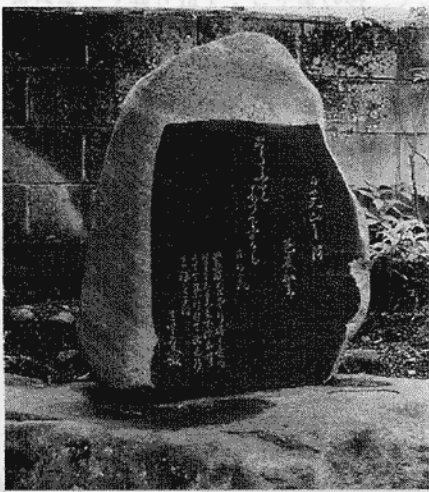
芭蕉の原句碑を建立

木の下闇も日の光

「あらたふと青葉若葉の日の光」の句は、「奥の細道」の旅の途中、日光の印象を詠んだ俳聖・松尾芭蕉の句として有名です。下鉢石町の高野忠治さん方の庭には、この句の原句とされる句碑が、百五十年以上前から立っていました。

しかし、風雨で文字が見えにくくなったことや、今年が「奥の細道」出版三百年に当たるため、大谷川の自然石を使った新しい碑を建立し、五月六日、除幕式を行いました。

新しい碑は、高さ約九十七センチ、文字は、古い句碑の拓本を基に彫ったものです。



あご関節がもろくなるには原因があるわけで、その第一は食べものが軟らかくなったことです。軟らかくしたのは、われわれ人間です。かまずに済むということは楽であり、その楽を求めてこれに手をし、望みどおり長生きも可能になって得意顔です。

しかし、高齢者社会を迎えるにあたって、みながみなうれしうかという、そうでもなく、憂え顔もよくみかけます。なぜでしょうか。生かされていることに対する恐れ、生きものとしての恥じらいがあるからではないでしょうか。「自ら生きている」というが

「歯の汚れ」

「むし歯・歯周病の増加」

「咬合の崩壊」

日光市歯科医師会 幹事 宮川 淳

掲示板

- ◆子供コミンカン 6月11日(日)・日光市中央公民館 お菓子づくりやお話会など楽しい催しがいっぱい。(中央公民館)
- ◆あいそ祭り 6月17日(土)18日(日)・中禅寺湖畔(中禅寺温泉観光協議会)
- ◆日高野球部対外試合 対那須拓陽高 6月3日(土)午後3時 対小山高 6月4日(日)午前9時 対鹿沼高 6月4日(日)午前11時30分 対大田原高 6月10日(土)午後3時 日光グランド(和の代)ご来場ご声援ください。
- ◆電話局の名称変更 NTT日光電報電話局は、「NTT日光営業所」と名称が変わりました(NTT日光営業所)
- ◆市民ギャラリーご利用を 郷土センター内の市民ギャラリーは皆さんのギャラリイとして無料で開放しています。グループ展、個展をはじめ、趣味のコレクション展など、お気軽にご利用ください。申込は、中央公民館(☎53-3700)へ。